

J A 自己改革推進レポートについて

令和6年11月25日

J A 鳥取県中央会

1. J A 自己改革実践状況

(1) J A 鳥取中央の取り組み

①北栄町で初めての就農相談会開催

J A 鳥取中央は9月29日、県内有数の農業どころである北栄町で就農・営農相談会を初めて開催した。持続可能な北栄町の農業を目指すため、生産組織、農業法人、行政、J A が一体となって就農や経営に関する相談の機会を設けた。

J A からは、町内の大栄西瓜組合協議会、長芋生産部、大栄花き部会、北条支所ぶどう生産部、らっきょう生産部会の5つの生産部が、10人の就農希望者に各農産物の魅力や栽培スケジュールなどを紹介した。

ブースごとの個別相談を行う前には、各部がPRする時間や、グループになって農業のやりがい、困難を乗り越えた方法について意見交換をする時間が設けられ、参加者は関心を寄せていた。

鳥取市から参加した就農希望者は「鳥取市から通えるのか、などの不安があり、相談に来た。品目はナガイモが気になった」と話した。

企画した北栄町産業振興課の清水直樹課長は「これまでの産地体験会に参加した人などに声を掛けて開催した。今回の有効性を考え、良ければ2回目も行っていきたい。」と意欲を込めて話した。



②「大栄西瓜」令和6年度販売金額22億3500万円 3年連続22億円達成！

J A 鳥取中央大栄西瓜組合協議会は10月15日、北栄町に全国の主要取引市場14社を招き、今年の販売を振り返る大栄西瓜販売対策会議を開催した。

令和6年度の出荷数量は55万9,661箱で、販売金額は22億3,500万円となり、3年連続で22億円突破を達成した。

1箱当たりの平均単価は、平成28年度以降右肩上がりで3,994円（前年比87円増）となり、今年も過去最高単価を更新した。

6月の出荷当初から安定した品質で高い糖度を維持し、選果場で毎年開催している人気イベント「大栄西瓜まつり」では、初めて販売金額が1,000万円を超えるなど、好調な販売となった。



同協議会の村岡高志会長は「生産者の努力もあり、最初から最後まで美味しいスイカを届けることができた。来年以降も1円でも高く売ってもらえる努力をしていきたい」と話した。

以上